

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

呉市立昭和中学校区 校番 16 学校名 呉市立昭和中学校

a 学校教育目標	自ら伸びる みんなで伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション) 夢を実現するために、主体的に学ぶ意欲を持ち、地域社会に貢献する人材の育成 (ビジョン) ①生徒の「生きる力」が育つ学校 ②生徒が安心して主体的に学び合い、学力が身につく学校 ③心を潤すことが自然に行き交い、社会性が高まる学校 ④地域・保護者から信頼される学校
----------	---------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	学力向上については、「呉の学校教育」の柱となる「考える授業」づくりと、本中学校区で進める「聴いて 考えて つなげる授業」モデルの関連を図り、ICTの効果的な活用方法についても研究と実践を重ねてきたが、今年度は、基礎学力の定着や家庭学習の習慣化のためにも個別最適な学びの充実に取り組む必要がある。生徒指導については、「チーム『笑輪』」をキーワードに、安全・安心な学校づくりを組織的に推進することに取り組んできたが、自分や周りにいる人を大切にすることができず、将来の「夢」や「目標」を持っていない生徒や、コロナ禍の影響等により、学校生活への適応が難しく学校に居場所を見出せない生徒も増えてきている。これらの現状を踏まえ、今年度から取り組む「校内SSR指導員派遣授業」の充実をはじめ、より丁寧な生徒理解に努める中で一人一人の生徒に寄り添い、自尊感情の育成や将来への展望を持たせていく必要に迫られている。さらに、昨年度から始まった新たな公立高等学校入学者選抜制度に対する成果と課題を踏まえ、キャリア教育の充実に取り組む中で「15歳の生徒に身に付けさせたい力」を見通しを持って計画的に育成していくことが求められる。 また、「働き方改革」の推進に係る呉市の指針を踏まえ、積極的な教職員間のコミュニケーションをより一層活性化させ、一人一人の教職員の願いや意見が尊重され、明るく活気ある「チーム『笑輪』」の学校組織体制を整備するとともに、学校の業務全般を視野に見据えたスクラップ・ビルドや、タブレットの活用を通じた組織的、効率的な業務遂行や業務改善を通して、教職員一人一人の実感を伴う「働きやすく働きがいのある職場づくり」を引き続き推進していく。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力」 「主体性・協働する力」
-------------	-----------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★ ★ ★ 学力の向上を図る。		【貴】(授業づくり) 継続的な授業改善に取り組む「考える授業づくり」を推進する。	全教職員による「聴いて 考えて つなげる授業」モデルの定着を通して、繋がりのある「考える授業づくり」の授業改善に取り組む。	生徒アンケート「授業中友だちの考えや意見をよく聴いています」の肯定的評価の割合	95%	87%	91%	B			
				生徒アンケート「授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています」の肯定的評価の割合	90%	88%	97%	B			
			学力調査等の結果を踏まえた基礎・基本のドリル学習や個に応じた課題学習を行う。	定期試験における「30%未満」の生徒の割合	10%以下	16%	63%	B			
			生徒の「読む力」や思考力・表現力を育成するための読書活動を推進する。	全国学力・学習状況調査や標準学力検査における、「30%未満」の生徒の割合	10%以下	17%	59%	B			
★ ★ ★ 豊かな感性や社会性を育む。		基礎・基本の定着や個に応じた指導の充実を図る。	生徒の「読む力」や思考力・表現力を育成するための読書活動を推進する。	生徒アンケート「1ヶ月の間に本を1冊も読んでいない」生徒の割合	20%以下	31%	65%	C			
			タブレットの活用を通じた課題解決学習や家庭学習の習慣化を図る。	生徒アンケート「タブレット端末を自分自身の学習に活用している」生徒の割合	100%	92%	92%	A			
			教科等に応じた予習・復習の内容の充実や、個に応じた課題設定等を工夫する。	生徒アンケート「家庭学習の目標時間を達成した」生徒の割合(1年:7時間/週 2年:8時間/週 3年:10時間/週)	60%	56%	93%	A			
			生徒の実態に応じた学習習慣の定着を図る。	生徒アンケート「時間を守っています」の肯定的評価の割合	95%	95%	100%	A			
★ ★ ★ 中学生としての自覚と責任を持たせる。		【貴】(居場所づくり) 生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。	規律ある学校生活の確立に向けて、登校から下校までの時間を意識させ行動化を図る。	保護者アンケート「お子様は時間を守って生活している」の肯定的評価の割合	95%	95%	100%	A			
			中学生としての自覚を持たせ、服装や髪型等の身だしなみを整えさせる。	生徒アンケート「服装や髪型などの学校のルールを守っています」の肯定的評価の割合	95%	95%	100%	A			
			身の回りの整理・整頓に努めさせ、落ち着いた学習環境づくりの統一化を図る。	生徒アンケート「机の中やロッカーを整理しています」の肯定的評価の割合	95%	88%	93%	B			
★ ★ ★ 豊かな感性や社会性を育む。		【貴】(居場所づくり) 生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。	生徒相互の人間関係や居場所づくりを進める学級経営や教育相談活動を推進する。	生徒アンケート「学校へ行くのは楽しいと思う」生徒の割合	90%	89%	99%	B			
				生徒アンケート「自分にはよいところがあると思う」生徒の割合	90%	84%	94%	B			
				生徒アンケート「あなたのよいところを分かってくれる友だちがいます」の肯定的評価の割合	95%	94%	99%	B			
			学校や地域、社会に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒アンケート「自分の将来に夢や目標を持っている」生徒の割合	90%	72%	80%	B			
業務改善	働きやすく働きがいのある職場づくりを推進する。	【共有】「協働」による組織的な業務改善や職場の活性化に取り組む。	「部活動休養日」を活用した学年・分掌会等の会議や職員研修の効率化、及び職場環境の整備を図る。	教職員アンケート「生徒と向き合える時間が確保されている」の肯定的評価の割合	80%	79%	99%	B			
			コミュニケーションを図る中で風通しの良い職場風土を醸成し、相互の支援体制や協力体制を構築する。	教職員アンケート「日々の業務の中で充実感を得られていると感じる」教職員の割合	90%	100%	111%	A			

[k:評価]A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

昭和中学校区 校番16 学校名 昭和中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上を図る	【真】継続的な授業改善に取り組み、「考える授業づくり」を推進する。  基礎・基本の定着や個に応じた指導の充実を図る。  生徒の実態に応じた学習習慣の定着を図る。	「人の考えや意見をよく聴く」、「自分の考えをわかりやすく説明する」ことについて生徒の意識は高くなっている。  授業等において生徒の一人ひとりの学習状況を踏まえたとでの手立てがより必要である。  タブレットの利点を各教科の日頃の授業や家庭学習に有効に活用できている。	「聴いて考えてつなげる授業」モデルを意識した授業改善を進めていく。また、タブレットを活用等を通して、意見を表明させる場面を作っていく。  生徒の実態に合った授業改善により、生徒の主体的に学習に臨む意識を高めていく。また、質問教室等の個への支援も継続して行っていく。  各教科で自主学習の取組方法についての指導の工夫を図っていく。また、個々の生徒が自分にとって必要なことを主体的に学習する方法を指導していく。
**	中学生としての自覚と責任を持たせる。	「授業規則やりきる三則」を徹底し、中学生としての規範意識の向上を図る。	時間を守ることについて、全体と個別の指導により着席に遅れる生徒は減少している。一方で、基本的な生活習慣が徹底できていない生徒がいる。  服装や身だしなみが大きく乱れる生徒はいないものの、指導を受けても意識が高まらない生徒や、繰り返し指導を受けたり、指導されるまで直せない生徒もいる。  学年が上がるにつれて生徒自ら学習環境に目が向けられるようになっていくが、ゴミが落ちていることやロッカーが整理できていない状況を気にとめない生徒や整理・整頓ができない生徒もいる。	引き続き、日々の学校生活での指導の徹底を行うとともに、委員会活動等、生徒の自主的な活動により継続して取組を行う。  あらゆる機会を通してねばり強い指導を行い、集団指導を充実させて生徒の意識や態度の改善を図る。  「授業規律やりきる三則」の徹底に向けて、統一した指導を継続する。また、各委員会の活動等を通して生徒同士で声を掛け合い、自ら過ごしやすい環境をつくる意識を持たせ、その活動をに教員が肯定的評価をしながら環境づくりを行う。
*	豊かな感性や社会性を育む。	【真】生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。  学校や地域、社会に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒は概ね学校生活には肯定的評価をしている。一方、決まった人間関係の中でしか活動できず、新しい人間関係を構築することが苦手な生徒がいる。  自分の将来の夢や目標につながるように、自分の良さを発揮できる場面づくりや生徒会執行部を中心に安心・安全な学校づくりに取り組んでいる。	学校行事などを通じて、新しい人間関係を構築できるように教員が工夫して取り組みを行う。また、その活動を教員が評価し、共感的な人間関係の育成を図っていく。  生徒の自己有用感や社会性を育むために、生徒の主体性を尊重しながら、生徒会活動やボランティア活動等の取組の充実を図る。
業務改善	働きやすく働きがいのある職場づくりを推進する。	生徒と向き合う時間を確保する  【共有】「協働」による組織的な業務改善や職場の活性化に取り組む	○職員会議や研修の効率化により生徒と向き合う時間を意識して作っている。  ○連携や役割を明確にすることで業務改善を進めている。	○業務改善に係るアイデアを出し合い、引き続き、生徒に向き合う時間の確保ができる職場づくりを推進する。  ○時間と仕事を意識し、計画を可視化して業務を進めていく。